

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1470901438
法人名	医療法人 寛栄会
事業所名	高齢者グループホーム カメリア貳番館
訪問調査日	令和8年1月7日
評価確定日	令和8年2月4日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は23項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901438	事業の開始年月日	平成18年4月1日
		指定年月日	令和5年12月1日
法人名	医療法人 寛栄会		
事業所名	高齢者グループホーム カメリア式番館		
所在地	〒223-0057 横浜市港北区新羽町4092-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和7年12月29日	評価結果 市町村受理日	令和8年2月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

カメリア式番館は、竹林や畑などに囲まれた緑豊かな環境の中に立地している。四季を通じて季節を肌で感じる事が出来る。天気の良い日には気分転換と運動を兼ねて散歩に出かけ、体力低下予防とともに地域社会と触れ合う機会を設けている。毎日の生活に関わることは、すべて入居者が主体的に関われるよう援助している。個人差のある心身機能の中で一人一人の出来る事、やりたいことを実現できる場を生活の中で提供し、生きがいや達成感を感じる事が出来るよう力を注いでいる。ホームで行う誕生会やクリスマス会などの楽しみも生活に取り入れている。また、入居者については、同法人の医師・看護師・管理栄養士・リハビリ担当者と相談し合えるサポート体制がある。年々変化していく入居者の状態に寄り添いながらその方の可能性や残存能力を活かし、入居者にとってより良い生活を念頭においた支援をしていきたいと考えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和8年1月7日	評価機関 評価決定日	令和8年2月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は医療法人寛栄会の経営です。同法人は、新横浜介護老人保健施設カメリアを中心に、併設のリハビリテーション・居宅介護支援センター・診療所と障がい者グループホーム、高齢者グループホームを2事業所等経営しています。法人本部の介護老人保健施設が徒歩圏内にあることから、医療・介護の協力及び、災害時等には相互に助け合うことが出来ることも法人経営の強みとなっています。ここ「高齢者グループホームカメリア式番館」は、横浜市営地下鉄「新羽駅」から徒歩15分程の、竹林や畑に囲まれた緑豊かな環境の中にあり、四季折々の自然の移り変わりを感じる事が出来ます。建物は2棟の建物が横に並ぶ平屋建ての造りで、各棟への行き来が楽に行えることから有事の際には相互に協力しやすい構造になっています。

●事業所では、家族の面会時に管理者やフロアリーダーが近況報告を行うとともに、意見や要望を伺うようにして、家族との情報共有や伝達ミスが起きないようにしています。「カメリア式番館だより」で月の行事・病院受診・毎日の様子などの内容に写真を添付し、毎月担当者を変えて報告しています。何かあればその都度電話で連絡し、意見や要望は合わせて聴いています。

いただいた情報は、申し送りや連絡帳で職員間で共有し対応しています。

●食事は週単位で法人の管理栄養士がメニューを作成し、食材は買い物に行き購入しています。調理は主に職員が行いますが、入居者は野菜の下拵え、盛り付け、食器洗いなど出来ることは行い残存能力の維持に繋げています。移動パン屋が来て、夫々好きな物を選びおやつ時に召し上がっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	高齢者グループホームカメラ式番館
ユニット名	A棟

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目に付くよう玄関に掲示されている。理念に基づきホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係づくりに努めている。入居者一人ひとりの個性を大切にしたいサービスを行なっている。	開設時の理念「①入居者の意思を尊重し充実した生活②家庭的なぬくもりで楽しい生活空間③家族・地域とのふれあいを大切に開かれたホーム」を現在も継続して掲げています。理念を各棟の玄関に掲示し、職員や来訪者の目に留まるようにしています。毎年事業所目標を立て、理念の実践に向けた取組が行われています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入をしている。町内会の催しでは、吊るし雛を出品見学をし、地域の行事に積極的に参加している。	自治会に加入し回覧板や掲示板を通して地域の情報を入手しています。自治会行事の「どんと焼き」「吊るし雛展示」には毎年参加し、地域の方々と交流しています。入居者との散歩時には、地域の方々と顔見知りになり庭の果物や花をいただくこともあります。今年度は地域ケアプラザの音楽会や、近隣の善教寺の音楽会に入居者と一緒に参加しています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、地域の人々に施設で行われている認知症ケアの工夫などを紹介している。地域の人々からの質問には丁寧に回答している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の日頃の様子を書面にて説明をし、入居者の生活をよりよく知っていただけるよう努めている。また、地域の方々の意見を聞き取ることの出来る場としている。	運営推進会議は、法人本部で老番館・式番館合同で3ヶ月に1回平日に開催しています。新羽町連合会長・大竹町内会長・地域ケアプラザ所長・包括支援センター看護師・入居者家族代表・他施設管理者・事業所大家などの方々の参加で、事業所の現状や・活動状況・事故報告等を中心に行事の様子写真と併せて報告し、意見や提案をいただいています。提案の「サマーフェスティバル」では駐車場の用意をいただき参加しています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政よりFAXや郵便などで情報提供を受けている。求められる調査には回答している。事務手続きで疑問点があれば、横浜市の介護事業指導課や港北区の担当者に関わり合いをしている。	港北区の担当者には、運営推進会議の議事録を提出して事業所の実情や現状を把握していただいています。行政とのやり取りは法人本部経由で行っていますが、介護保険の更新手続きや、区分変更などは直接事業所から申請など行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で行う身体拘束防止委員会に職員が委員として参加し、身体拘束の定義を再確認し、ホーム職員と意識共有を行っている。又、外出願望のある入居者には外気に触れるなど、可能な限り外出できるよう支援している。	身体拘束防止委員会は、毎月法人本部で各施設合同で開催しています。事業所からは各フロアの職員が委員として参加し、委員会内容については、フロア会議や、連絡帳にて報告しています。身体拘束に関する指針や、マニュアルを整備し、研修は年2度の開催があり、開催月には2回開催し、職員は都合の良い日程で受講しています。外出願望のある入居者には可能な限り一緒に外出して、外気に触れるなどの支援をしています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、法人内の虐待防止に関する勉強会へ参加し学ぶ機会を作っている。又、家族とは積極的に会話を交わし情報共有に努めている。さらに、管理者は職員による入居者に対する声掛けや対応などで、気になる事は常に注意を払い虐待につながらない様、防止に努めている。	虐待防止委員会は身体拘束防止委員会と合わせて、毎月法人本部で開催しています。事業所からは委員の職員が参加し、委員会議事録は回覧しています。虐待の防止に関する指針や、マニュアルを整備しています。虐待防止についての研修は、年2度の開催があり開催月には2回開催し、都合の良い日程で受講しています。虐待防止に向け職員のストレスチェックを年1回実施しています。また法人独自のチェックシートで年1回は自己点検を実施し、虐待をしないケアに努めています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で実施している権利擁護に関する制度の研修に参加している。日常生活自立支援事業や成年後見制度が必要と判断される場合は、関係者と相談できるよう配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、重要事項説明書や契約書の内容を一つ一つ理解しやすい表現に言い換えながら説明し理解を求め、疑問点がないか確認を行うよう配慮している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関の見やすい場所に意見箱を設置している。重要事項説明書に苦情窓口の連絡先を明記している。	入居契約時に重要事項説明書に明記している苦情相談窓口について、家族に説明しています。玄関には意見箱を設置し、意見や要望を表出しやすい環境を整備しています。家族の面会時には、管理者やフロアリーダーが対応し、併せて意見・要望を伺うようにしています。「カメラ式番館だより」にて今月の行事・病院受診・毎日の様子などの内容に写真を添付し、毎月担当者を変えて報告しています。何かあればその都度電話連絡し意見や要望は合わせて聴いています。いただいた情報は申し送りや連絡帳で共有し対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を行い、業務改善についての話し合いや入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。また、日常的に管理者が職員の意見を聞くように努めている。	A棟・B棟のフロア合同で、ほぼ月1回のフロア会議を開催して、職員や各委員会の職員から報告や、意見を聴く機会を設けています。会議に欠席の職員には議事録と口頭で説明して伝達の漏れがないようにしています。日常的に職員が意見や、提案をしやすい状況を作っていますが、気になる職員には声をかけ話しを聴いています。月2回は、法人内各部署の責任者による部内会議を開催し、各事業所内の職員から上がった意見や、提案について、検討を行い反映させています。	今後の継続	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月2回の法人内、各部署代表者による会議で、それぞれの部署との情報交換を行っている。また法人本部には常にあらゆる相談できる体制が整っている。	新人職員はオリエンテーションで、就業規則に基づきサービス・給与・休暇など就業環境の規則や規定について説明しています。福利厚生では、2年に1度の研修旅行や、ホテルでの納涼会・忘年会の開催。シフト作成時には、有給休暇や、希望休の確認などワークライフバランスにも配慮しています。実践者研修や実践リーダー研修などは費用や時間の支援制度があり受講しています。	今後の継続	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内での合同の新人研修や毎月実施の学習会に参加している。業務内では先輩職員が後輩職員へ随時指導が出来るような組織作りを行っている。	新人職員を対象に年の前期・後期の新人研修を開催し、介護に係わる基礎・実技・知識・法令・倫理等に関して学んでいます。その後は、各事業所で管理者またはトレーナーによるOJTを実施しています。法人内研修は、毎月法人本部にて同じ内容を2回開催し職員は都合の良い日で受講しています。欠席者は、研修資料で受講し、受講後のアンケートで理解度の確認をしています。	今後の継続	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議では、地域の他グループホームの管理者に委員として参加していただき、交流する機会を設けている。同法人内のグループホームとも情報交換を積極的に行っている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ホームでの生活を具体的に詳しく伝え、より安心感を得られるよう努めている。入居前に入居者本人が見学するよう奨めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する初期の段階では、家族との連絡を密に行い、相談には丁寧に答えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者が生活していく上でどのような支援が必要なのか、また家族が何を求めているのかを考慮し、当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているかを検討し、必要に応じて他種機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む中で身支度・入浴・掃除・食事の支度など、出来る事は入居者に行っていただき、職員は足りない所をサポートするような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者の絆を大切にするために、行事を計画する際には家族の参加と協力を促している。また入居者の受診の際にも家族の付き添いをお願いするなどしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、これまで入居者が生活してきた馴染みの物を持込んでいただき、生活空間の中に取り入れている。	入居事前面談で、本人の馴染みの人や、場所などの情報を把握し、関係が途切れないように支援しています。現在は感染症に留意しつつ面会対応を行っています。入居以前には編み物の先生をしていた方が、現在は趣味で作品を作り作品展に出品できるよう支援しています。毎日定時に入居者の息子さんから電話が入り、取り次ぐなどの支援も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場面で、散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わり合える時間を設定している。入居者同士でうまくコミュニケーションが取れない場合は職員が間に入り、より良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の郵便物には一筆添えるなどして、これまでの関係を長く継続できるような関係づくりに配慮している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の要望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい料理や行きたい場所など、日々の会話から聞き取る努力をしている。	入居事前面談で本人・家族・介護支援専門員から、過去の生活歴・既往歴・趣味・嗜好品、暮らし方の希望など、本人に関する情報を聴き取っています。入居後は、職員全員で日々の会話の中から食べたい料理や、行きたい場所などの情報を聴き取るよう努力しています。情報は個人ファイルに記入したり連絡帳でも共有しています。お酒の好きな方の情報で自治会行事時に飲酒する機会があり、個別対応の支援をしています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望時に、入居者の生活歴や職業歴、出身地、住んでいた場所などの聞き取りをおこなっている。また入居者との会話の中でも、これまでの暮らしに関する情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	活動チェック表に、入居者が行った家事・レクリエーション・散歩の距離などを記録して、入居者の暮らしの現状を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の要望を取り入れ、日々の生活からアセスメントを行い、6カ月毎に介護計画を作成している。状態が変化した時は、随時プランを変更している。	各棟の計画作成担当は、サービス内容を日々の生活からアセスメントを行い支援経過表に記録し、変化が無い場合には、6ヶ月後に介護計画を更新しています。毎月のフロア会議では更新月の方や、サービス内容の変更が必要と思われる方を中心にモニタリングを行っています。更新月のサービス担当者会議は、計画作成担当者・看護師・介護職員・管理者・リハビリ担当者等が参加し、意見交換を行い職員の気づきや日々の記録を基に、新たな介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに一日の行動を記録している。入居者についての気付いたことなどは、申し送りノートに記入し、職員内で把握し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ職員や管理栄養士に相談し、リハビリの方法や食事摂取困難な方への対応を参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然環境豊かな中での散歩を楽しめるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の確認を行っている。入居後は、週に1回、カメラリア診療所医師による訪問診療で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行っている。	入居契約時に事業所の協力医療機関について説明し、本人や家族の希望を確認したうえで、主治医を決めていただいています。現在は全員の方が協力医療機関を希望しています。訪問診療で状態が安定していれば月1回の受診を行い、処置など必要は場合は週1回の受診を行っています。歯科は必要に応じた往診と、3ヶ月に1回の定期検診などに対応しています。眼科・脳神経外科・整形外科などは、他の医療機関を受診しています。職員の看護師が週1回来て体調管理を行い、急変時は、看護師及び医療機関による24時間のオンコール体制が整っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内事業所との医療連携を行っており、医療連携看護師による定期的な入居者の健康管理を行っている。入居者の健康状態については、常時相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を病院関係者に伝えている。また、退院が近くなった時には、家族の許可を得て、病院関係者より入院中の様子や退院後の注意事項の聞き取りを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については、必要に応じて話し合いを行っている。同法人の介護老人保健施設では看取り介護も行っており、家族と話し合いの上、退居後に介護老人保健施設を利用した例がある。	入居時に重度化した場合に関する指針に基づき、終末期のあり方について説明しています。事業所では看取り介護は行っておらず、主治医の判断の下、重度化が認められた際には、家族等と話し合いの場を設け、改めて意向を確認しています。入浴状態や、食事形態などの変化に応じて、特養の施設への申し込み手続きの説明や、要望により同法人の介護老人保健施設では、看取り介護まで行っていることから、退去後に利用する方の支援なども実施しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修会に参加し、急変時の対応について知識を高めている。勉強会では救急搬送時の手順の確認や心肺蘇生法の実践を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽消防出張所の協力の下、年2回の防災訓練を行っている。訓練では、入居者も参加し、通報・消火・避難誘導の訓練を行っている。	防災訓練を年に2回、夜間に火災発生や地震災害の想定で実施しています。消防署・設備業者・事業所の大家さんの立ち合いで、避難誘導・初期消火訓練など行っています。訓練後には反省会がありアドバイスなどいただく事もあります。訓練に加え、ホーム内自主研修も2ヶ月に1回実施しています。BCPへの対応は書類の整備や、研修を実施して、備蓄品として水やお粥・パン等3日間分の食料と、ヘルメット・ランタン・カセットコンロ・ポンチョ・衛生用品など準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重した対応には、常日頃から心がけ、フロア会議・申し送り等を通じ職員の言葉遣いや接し方について、正しい接遇方法を確認している。	新人職員は研修計画にて介護に係わる基本内容や、理念、法令、倫理などを学んでいます。法人の接遇委員会に職員が委員として参加し、委員会での情報を共有しています。また、フロア会議や申し送りでも適宜、不適切な言動について事例を挙げて説明しています。接遇チェックは年2回実施しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時には、入居者の要望に耳を傾け、入居者の自己決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示し、選んでいただく等の工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをする時には気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声かけを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子から、入居者の好む色や組み合わせを把握し、日常の洋服選びでは、気持ちよく過ごせる着まわしを提案している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、入居者と職員が一緒に行っている。基本の献立はあるが、個別に好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が出来るよう配慮している。	週単位で法人の管理栄養士がメニューを作成しています。食材は2日に1度買い物に行き購入しています。調理は主に職員が行いますが、入居者は野菜などの下ごしらえ、盛り付け、食器洗いなど出来ることは行っていただき残存能力の維持につなげています。食レクではおやつホットケーキ・月見団子など手作りして楽しんでいます。また移動パン屋が来て、入居者が好きな物を選び、おやつ時に召し上がっています。誕生日会は、スポンジケーキに果物やクリームでデコレーションをした手作りケーキでお祝いしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取しにくい入居者には、好みの飲み物の提供や嚥下を理解した形態の工夫をしている。食事量の少ない方には声かけや介助を行い、食間に、おやつを提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な入居者には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。また月1回歯科衛生士による職員への口腔ケア指導を行っている。			
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や、日々申し送り情報で個々の排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。必要な入居者には昼夜トイレの声かけを行い、羞恥心に配慮しながら排泄を行えるよう支援している。	自立の入居者以外は、排泄チェック表への記入や、申し送りにより、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。時間やタイミングを見計らった声かけで、トイレでの排泄を促しています。夜間はポータブルトイレを使用する方や、支援が必要な入居者には、羞恥心に配慮しながら定時にトイレ誘導を行い、排泄の失敗を減らせるよう取り組んでいます。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給・排便効果のあるヨーグルト・冷たい牛乳の摂取など、各入居者に合った方法を提供している。運動の足りない入居者には散歩を促している。それでも改善しない入居者には医師に相談している。			
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間については、入居者の希望に出来るだけ沿えるようにし、個々に応じた入浴支援に努めている。	入浴は週2回を基本とし、排泄等の汚れが有る場合は、その都度支援しています。時間帯は午前中を基本にしていますが、希望に応じて午後にも行っています。一番風呂が好きな方や、苦手な方など夫々の好み聴き出来る限り対応しています。同性介助の支援も行っています。入浴前の体調確認や、皮膚チェックなどと、入浴後の水分補給や保湿クリームの塗布など支援しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、入居者が過ごしやすい環境作りに努めている。また、居室の空調には気を配り、就寝しやすい室温を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より薬が処方された時は、薬の内容を申し送り、職員が薬の効用を認識できるようにしている。服薬の際は、服薬チェック表への記入を行い、誤薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力や経験に応じて、食事作り、食事の盛り付け、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除など、役割を持てるよう配慮している。将棋の出来る入居者には将棋の対局の場を設けている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下を予防すると共に、季節を実感する機会を提供している。	事業所の周辺は、緑が多く竹林や畑もあり、自然に囲まれた環境を活かし、天気の良い日には近隣へ散歩に出かけ、入居者の健康促進と共に季節を実感できるよう支援しています。玄関前のベンチでは、日光浴をしたりプランターの花や野菜を眺めています。ドライブでは、桜の花見と、事業所の大家さんの畑で芋掘りをさせていただいたり、自治会館で開催されるどんと焼きや、吊るし雛作品見学にも出かけています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は基本的に施設で預かっているが、入居者の希望と、家族の理解があった場合には、入居者の管理能力に応じて所持できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に入居者から電話の希望があった場合や入居者が手紙を書きたいと希望があった際には、職員が支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝と昼に入居者と職員で掃除を行い清潔の維持に努めている。また、カーテンを活用するなどして、時間や気候に即した外光管理を行っている。また、入居者が快適に過ごせるよう、エアコンやサーキュレーターを利用した温度管理を行っている。	リビングは毎日の朝と昼の2回入居者と一緒に清掃を行い、換気や室温・湿度の管理は職員によって行われ、快適に過ごせるように環境を整えています。窓はカーテンを活用し、時間や気候に合わせて開閉して採光を調整しています。入居者の動線に配慮した椅子の配置や、妨げにならないよう整理整頓を心がけ、安心かつ安全に過ごせるように支援しています。リビングには入居者の書き初め作品や、季節の装飾などと、メダカを飼育して、入居者を和ませています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子やソファを使い、入居者が自由に過ごしている。共有部分でも一人になれる場があり、入居者の居場所の工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた調度品や家具、家族の写真などを持ち込んでいただき、今までの生活とのつながりを身近に感じることが出来るよう配慮している。	居室にはエアコン・クローゼット・換気扇・照明等を完備しています。エアコンは老朽化のため、昨年末に新品に入れ替えています。入居時には、使い慣れた家具や日用品、調度品などを持ち込んでいただくよう伝え、今までの生活とのつながりを感じ、本人が居心地良く過ごせるように工夫して配置しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置され、入居者が一人で安全に生活できるようにしてある。転倒の危険性が高い入居者には職員が歩行の介助を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

高齢者グループホーム
カメラア式番館

作成日

令和8年1月7日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	入居者の尊厳を尊重した声掛けや対応に努めているが、コミュニケーションの質を更に高めより丁寧な配慮を心掛ける事が課題である。	入居者の自尊心を尊重した対応を徹底し、安心して生活できる環境を整える。	入居者や家族の声を取り入れ対応を見直し、事例など職員間で共有しながら丁寧な支援へつなげる。	
2	35	職員の年齢層や外国籍人材の多様性を踏まえ、繰り返し実践を重ねることで、防災意識を高めることが課題である。	職員一人ひとりの災害意識を高め、防災スキルを定着させることで、入居者が安心して安全に避難できる体制を確立する。	避難訓練を繰り返し実践し、防災意識を高め多言語対応や振り返りで理解度と改善を図る。	

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	高齢者グループホームカメラ式番館
ユニット名	B棟

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目に付くよう玄関に掲示されている。理念に基づきホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係づくりに努めている。入居者一人ひとりの個性を大切にしたいサービスを行なっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入をしている。町内会の催しでは、吊るし雛を出品見学をし、地域の行事に積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、地域の人々に施設で行われている認知症ケアの工夫などを紹介している。地域の人々からの質問には丁寧に回答している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の日頃の様子を書面にて説明をし、入居者の生活をよりよく知っていただけるよう努めている。また、地域の方々の意見を聞き取ることの出来る場としている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政よりFAXや郵便などで情報提供を受けている。求められる調査には回答している。事務手続きで疑問点があれば、横浜市の介護事業指導課や港北区の担当者にお問い合わせをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で行う身体拘束防止委員会に職員が委員として参加し、身体拘束の定義を再確認し、ホーム職員と意識共有を行っている。又、外出願望のある入居者には外気に触れるなど、可能な限り外出できるよう支援している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、法人内の虐待防止に関する勉強会へ参加し学ぶ機会を作っている。又、家族とは積極的に会話を交わし情報共有に努めている。さらに、管理者は職員による入居者に対する声掛けや対応などで、気になる事は常に注意を払い虐待につながらない様、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で実施している権利擁護に関する制度の研修に参加している。日常生活自立支援事業や成年後見制度が必要と判断される場合は、関係者と相談できるよう配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、重要事項説明書や契約書の内容を一つ一つ理解しやすい表現に言い換えながら説明し理解を求め、疑問点がないか確認を行うよう配慮している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関の見やすい場所に意見箱を設置している。重要事項説明書に苦情窓口の連絡先を明記している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を行い、業務改善についての話し合いや入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。また、日常的に管理者が職員の意見を聞くように努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月2回の法人内、各部署代表者による会議で、それぞれの部署との情報交換を行っている。また法人本部には常にあらゆる相談できる体制が整っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内での合同の新人研修や毎月実施の学習会に参加している。業務内では先輩職員が後輩職員へ随時指導が出来るような組織作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議では、地域の他グループホームの管理者に委員として参加していただき、交流する機会を設けている。同法人内のグループホームとも情報交換を積極的に行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ホームでの生活を具体的に詳しく伝え、より安心感を得られるよう努めている。入居前に入居者本人が見学するよう奨めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する初期の段階では、家族との連絡を密に行い、相談には丁寧に答えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者が生活していく上でどのような支援が必要なのか、また家族が何を求めているのかを考慮し、当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているかを検討し、必要に応じて他種機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む中で身支度・入浴・掃除・食事の支度など、出来る事は入居者に行っていたり、職員は足りない所をサポートするような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者の絆を大切にするために、行事を計画する際には家族の参加と協力を促している。また入居者の受診の際にも家族の付き添いをお願いするなどしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、これまで入居者が生活してきた馴染の物を持込んでいただき、生活空間の中に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場面で、散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わり合える時間を設定している。入居者同士でうまくコミュニケーションが取れない場合は職員が間に入り、より良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の郵便物には一筆添えるなどして、今までの関係を長く継続できるような関係づくりに配慮している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の要望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい料理や行きたい場所など、日々の会話から聞き取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望時に、入居者の生活歴や職業歴、出身地、住んでいた場所などの聞き取りをおこなっている。また入居者との会話の中でも、これまでの暮らしに関する情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	活動チェック表に、入居者が行った家事・レクリエーション・散歩の距離などを記録して、入居者の暮らしの現状を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の要望を取り入れ、日々の生活からアセスメントを行い、6カ月毎に介護計画を作成している。状態が変化した時は、随時プランを変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに一日の行動を記録している。入居者についての気付いたことなどは、申し送りノートに記入し、職員内で把握し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ職員や管理栄養士に相談し、リハビリの方法や食事摂取困難な方への対応を参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然環境豊かな中での散歩を楽しめるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の確認を行っている。入居後は、週に1回、カメラリア診療所医師による訪問診療で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内事業所との医療連携を行っており、医療連携看護師による定期的な入居者の健康管理を行っている。入居者の健康状態については、常時相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を病院関係者に伝えている。また、退院が近くなった時には、家族の許可を得て、病院関係者より入院中の様子や退院後の注意事項の聞き取りを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については、必要に応じて話し合いを行っている。同法人の介護老人保健施設では看取り介護も行っており、家族と話し合いの上、退居後に介護老人保健施設を利用した例がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修会に参加し、急変時の対応について知識を高めている。勉強会では救急搬送時の手順の確認や心肺蘇生法の実践を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽消防出張所の協力の下、年2回の防災訓練を行っている。訓練では、入居者も参加し、通報・消火・避難誘導の訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重した対応には、常日頃から心がけ、フロア会議・申し送り等を通じ職員の言葉遣いや接し方について、正しい接遇方法を確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時には、入居者の要望に耳を傾け、入居者の自己決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示し、選んでいただく等の工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをする時には気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声かけを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子から、入居者の好む色や組み合わせを把握し、日常の洋服選びでは、気持ちよく過ごせる着まわしを提案している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、入居者と職員が一緒に行っている。基本の献立はあるが、個別に好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が出来るよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取しにくい入居者には、好みの飲み物の提供や嚥下を理解した形態の工夫をしている。食事量の少ない方には声かけや介助を行い、食間に、おやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な入居者には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。また月1回歯科衛生士による職員への口腔ケア指導を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や、日々申し送り情報で個々の排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。必要な入居者には昼夜トイレの声かけを行い、羞恥心に配慮しながら排泄を行えるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給・排便効果のあるヨーグルト・冷たい牛乳の摂取など、各入居者に合った方法を提供している。運動の足りない入居者には散歩を促している。それでも改善しない入居者には医師に相談している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間については、入居者の希望に出来るだけ浴えるようにし、個々に応じた入浴支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、入居者が過ごしやすい環境作りに努めている。また、居室の空調には気を配り、就寝しやすい室温を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より薬が処方された時は、薬の内容を申し送り、職員が薬の効用を認識できるようにしている。服薬の際は、服薬チェック表への記入を行い、誤薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力や経験に応じて、食事作り、食事の盛り付け、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たみ、掃除など、役割を持てるよう配慮している。将棋の出来る入居者には将棋の対局の場を設けている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下を予防すると共に、季節を実感する機会を提供している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は基本的に施設で預かっているが、入居者の希望と、家族の了解があった場合には、入居者の管理能力に応じて所持できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に入居者から電話の希望があった場合や入居者が手紙を書きたいと希望があった際には、職員が支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝と昼に入居者と職員で掃除を行い清潔の維持に努めている。また、カーテンを活用するなどして、時間や気候に即した外光管理を行っている。また、入居者が快適に過ごせるよう、エアコンやサーキュレーターを利用した温度管理を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子やソファを使い、入居者が自由に過ごしている。共有部分でも一人になれる場があり、入居者の居場所の工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた調度品や家具、家族の写真などを持ち込んでいただき、今までの生活とのつながりを身近に感じることが出来るよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置され、入居者が一人で安全に生活できるようにしてある。転倒の危険性が高い入居者には職員が歩行の介助を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 高齢者グループホーム
カメラア式番館

作成日 令和8年1月7日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	入居者の尊厳を尊重した声掛けや対応に努めているが、コミュニケーションの質を更に高めより丁寧な配慮を心掛ける事が課題である。	入居者の自尊心を尊重した対応を徹底し、安心して生活できる環境を整える。	入居者や家族の声を取り入れ対応を見直し、事例など職員間で共有しながら丁寧な支援へつなげる。	
2	35	職員の年齢層や外国籍人材の多様性を踏まえ、繰り返し実践を重ねることで、防災意識を高めることが課題である。	職員一人ひとりの災害意識を高め、防災スキルを定着させることで、入居者が安心して安全に避難できる体制を確立する。	避難訓練を繰り返し実践し、防災意識を高め多言語対応や振り返りで理解度と改善を図る。	

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。